

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

表紙,目次,奥付,その他

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://repository.ninjal.ac.jp/records/1910">https://repository.ninjal.ac.jp/records/1910</a>

# 日本語教育論集

19号 2003

## [寄稿]

日本語教育実習生の授業への態度：現職教師との比較 才田 いずみ

## [報告]

中国長春市における教師勉強会とメーリングリストの活用 西谷 まり

## [研究ノート]

上級日本語学習者に対するポジショニングマップを用いた  
語彙指導—印象・感想を述べる手段としての形容詞— 黒崎 誠・黒崎 亜美  
播岡 恵・丸山 伊津紀

連体修飾構造の習得における母語の影響について  
—過程的転移としての「の」の過剰使用— 小山 悟

## [英文要旨]

[平成14年度日本語教育上級研修報告]

[平成14年度日本語教育短期研修報告]

日本語教育論集

19

2003

# 日本語教育論集第19号

## 目次

### [寄稿]

日本語教育実習生の授業への態度：現職教師との比較	才田 いずみ	1
--------------------------	--------	---

### [報告]

中国長春市における教師勉強会とメーリングリストの活用	西谷 まり	16
----------------------------	-------	----

### [研究ノート]

上級研修日本語学習者に対するポジショニングマップを用いた 語彙指導－印象・感想を述べる手段としての形容詞－	黒崎 誠・黒崎 亜美 播岡 恵・丸山 伊津紀	29
--	---------------------------	----

連体修飾構造の習得における母語の影響について －過程的転移としての「の」の過剰使用－	小山 悟	41
---	------	----

[英文要旨]		53
--------	--	----

[平成14年度日本語教育上級研修報告]		57
---------------------	--	----

[平成14年度日本語教育短期研修報告]		59
---------------------	--	----

『日本語教育論集』投稿規定・執筆要領		61
--------------------	--	----

編集後記		62
------	--	----

## 『日本語教育論集』投稿規定・執筆要領

1. 目的  
本誌は、日本語教育および日本語教師教育の内容・方法に関わる研究、特に、教育実践にもとづいた研究、新たな視点に立つ研究、将来の展開が期待される研究の成果を積極的に公表することにより、日本語教育の発展に寄与しようとするものである。
2. 投稿資格  
上記の目的に合致する内容の原稿であれば、投稿資格は問わない。
3. 原稿の種類  
投稿原稿は未発表のものに限る。ただし、学会における口頭発表等を論文の形式にまとめなおしたのも未発表とみなす。投稿原稿の種類は以下のとおり。  
  
研究論文：オリジナルな知見や提言を含む理論的、実証的な研究論文  
報告：教育実践の報告・分析、調査報告、等。  
研究ノート：上記の研究論文および報告に至る前の、萌芽的・探索的な段階の研究・報告、等  
  
尚、特定のテーマを設け、内外の研究者に執筆を依頼することがある。
4. 原稿の書式その他
  - 1) 原稿は日本語または英語で執筆する。
  - 2) 原稿は和文論文の場合、A4判横書き、40字×35行で作成し、研究論文および報告は14ページ以内、研究ノートは8ページ以内とする。英文論文の場合、A4判1ページあたり30行とし研究論文および報告は20ページ以内、研究ノートは12ページ以内。いずれも、タイトル、図表、資料等を含むこととする。
  - 3) タイトル（和文および英文）、要旨（和文論文の場合は300字以内、英文論文の場合は200語以内）、キーワード（5つ以内）、本文の順で記述する。
  - 4) 注と文献は本文の後にまとめて示す。
  - 5) 3)に示した要旨とは別に、英文要旨・英文キーワード（和文論文の場合）または和文要旨・和文キーワード（英文論文の場合）を添付する。分量は3)と同じ。
  - 6) 原稿はワープロを使用してできるだけ刷り上がり時のイメージに近い形で作成することが望ましい。
- 7) 投稿時は、審査用複写3部を提出し、審査終了後編集委員会の通知に従い印刷用原稿およびフロッピーを提出する。原稿は原則として返却しない。
- 8) 別紙に、論文タイトル、上記3.の内容区分、執筆者、所属機関名、連絡先（郵便番号、住所、電話番号、ファクス番号、Eメールアドレス）を記し、原稿とともに提出する。
5. 投稿締め切り  
20号においては、9月1日（必着）を締め切りとする。
6. 採否の決定  
本誌編集委員会が査読・審査し、採否を決定したうえ、締め切り日から3か月以内に結果を知らせる。
7. 採録決定後の修正  
採録決定後、体裁や書式について編集委員会から著者に修正を求める（あるいは編集委員会の判断で書式の細部を変更する）ことがある。
8. 採録となった執筆者には、掲載号2部を呈呈する。
9. 著作権
  - 1) 図版の転載など著作権にかかわることからは、投稿の際に執筆者の責任において必要な処理を行うこと。
  - 2) 掲載された論文等の著作権（著作権法第27条、28条を含む）は国立国語研究所に帰属する。
10. 発行予定  
2004年3月末  
  
\*投稿原稿は、下記編集委員会まで郵送のこと。  
〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14 国立国語研究所『日本語教育論集』編集委員会  
\*問い合わせは、文書・FaxまたはE-mailで編集委員会まで。  
〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14 国立国語研究所『日本語教育論集』編集委員会  
Fax：03-3900-6559  
E-mail：ronshu@kokken.go.jp  
URL：http://www.kokken.go.jp/jsl/

◇・◇・◇・◇編集後記◇・◇・◇・◇

19号には、9編の投稿があり、3編が採録されました。いずれも学習者あるいは教師の学びのプロセスに視点が置かれた論文です。日本語教育の現場でご活躍の方々の実践、そして、実践に基づく考察が述べられ、他の日本語教育関係者の参考となることが期待されます。

また、才田いずみさんには、日本語教育における教師教育に関する寄稿をお願いし、授業に対する態度について教育実習生と現職教師とを比較したご研究についてご紹介いただきました。教師教育のあり方を考える上で、教師の思考過程、成長の実際を知ることが重要な研究課題です。そして、それがこのような論文として公表された時、読者の中には、他教師の思考のあらわれとして発せられたことばをデータとして読みつつも、教師としての自分の思考や行為を振り返る方も多いことと思います。こういった論文の、二重三重の可能性を感じずにはられません。今回、この貴重な論文をお寄せいただいたことは、日本語教育の活性化を願う本誌にとって、非常にありがたいことです。

『日本語教育論集』は教室研究、学習者研究、教師教育研究など日本語教育の実践に深く関わりのあるものを中心に取り上げることが主眼としております。このねらいが、実際にご紹介する論文によってどの程度お伝えできるかが、目下の課題です。今後、号を重ねるにつれて、本誌の特徴がより明確となり、日本語教育の実践に関わる論文が数多く寄せられることになるよう、編集委員として努力・工夫してまいります。

皆様の積極的な投稿を期待しております。また、本誌に関するみなさまのご意見をお待ちしております。

編集委員会  
(記：金田)

- \* 『日本語教育論集』ホームページ：<http://www.kokken.go.jp/jsl>
- \* ご意見・ご質問はこちらへ：[ronshu@kokken.go.jp](mailto:ronshu@kokken.go.jp)

『日本語教育論集』 19号 執筆者

才田 いずみ (東北大学)  
西谷 まり (一橋大学留学生センター)  
黒崎 誠・黒崎 亜美・播岡 恵・丸山伊津紀  
(財団法人ラボ国際交流センター ラボ日本語教育研修所)  
小山 悟 (九州大学)

日本語教育論集編集委員会委員

池上 摩希子 (中国帰国者定着促進センター)  
石井 恵理子 (国立国語研究所)  
小河原 義朗 (国立国語研究所)  
金田 智子 (国立国語研究所)  
Gehertz三隅 友子 (徳島大学)  
小林 ミナ (北海道大学留学生センター／大学院国際広報メディア研究科)  
杉戸 清樹 (国立国語研究所)  
村岡 英裕 (千葉大学)

査読協力者 (所属略)

石黒 広昭, 井上 優, 宇佐美 まゆみ, 宇佐美 洋, 熊谷 智子, 谷口 すみ子,  
春原 憲一郎, 古川 嘉子

編集協力者

カネギ ルース (国立国語研究所)

事務局

竹田 麻衣 (平成14年 9月まで)  
福富 七重 (平成14年10月より)

日本語教育論集 19

---

発行 平成15年3月 平14-16  
編集 国立国語研究所日本語教育部門  
〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14  
TEL:03-3900-3111 (代表)  
FAX:03-3900-6559  
URL:<http://www.kokken.go.jp/jsl/>

---

2003

日本語教育論集

ISSN 1346-9762